

学生担当者報 9

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉

Vol. 451

TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp 立教 187 年 2024 年

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net 8 月 25 日発行

「学生の集いまなびば」 開催会場一覧

教区	日時	会場	会場責任者	連絡先
沖縄	9 月 22 日 13 時～ 23 日 14 時	那覇分教会	高安なつみ	098-868-3389 (教務支庁)

お知らせ

九月例会

期日…立教 187 年 9 月 25 日
 時間…15 時 30 分受付 16 時開始
 会場…12 母屋 3 階大広間

学生層育成者講習会

日程・会場案内

【教区】
 ・岩手 9 月 1 日 10 時～ 教務支庁

報告

七月例会

去る 7 月 25 日、天理大学ふるさと会館において「7 月例会」を開催。出席は 22 教区、81 直属。

人事

《立教 187 年 7 月 25 日付》
 【直属学生担当委員長辞令交付】
 ・市村光一（甲府・諏訪）

業務記録

- 《立教 187 年 7 月 16 日～8 月 15 日》
- 7 月 18 日 まなびばチーム会議
 - 24 日 担当者活動部部会
 - 25 日 委員会 例会
 - まなびば研究室会議
 - 広報室会議
 - 27 日 こどもおちばがえり
 - 大学生ひのきしん隊（～4 日）
 - 8 月 7 日 学生生徒修養会 高校の部
 - スタッフ直前研修会（～8 日）
 - 9 日 学生生徒修養会 高校の部（～13 日）

「なんか涙出ちゃいますね」



ある教区のまなびば事前研修会で、最後の寄せ書き交換の時の担当委員長さんの言葉である。

その姿を目の当たりにした私はここ最近、学生のために涙を流すほど真実を尽くしたこと、あったかなあと振り返る。

昨年 9 月 25 日の例会の場で辞令が交付され A さんは教区委員長に就任された。引き続き催された教区懇談会。その後知り合いもない懇親会の場に副委員長 B さんと共に居た A さんの隣の席に私は座った。はじめましての私に、委員長にはなつたけれど、何をどうしていったらいいのか正直さっぱりわからない。「それならまず 11 月に開催される育成に役立つ研修会にぜひ参加してみてください」と声を掛けた。素直な A さんはすぐに飛行機の手ケットを準備し研修会に参加、期間中何度もいい顔の本人を見かけうれしく思った。それから B さんと交代で例会に

来てくださるたびに声を掛け、必要な時には連絡を取り合っていた。そうしている間に自教区でのまなびば開催に向けて動いていることを知り、尚さら応援に力が入った。いよいよまなびば事前研修会を開催する旨を知り、育成に役立つ研修会で A さんの班のトレーナーをつとめた N ちゃんと共に飛行機に乗り現地向かった。当日、御年 80 才を超えるご夫婦をはじめ、婦人会の方、夜勤明けで参加の方、学生上がりの子、立場年齢を問わず 13 名の参加者はプログラムが進むにつれ心が開き、おやさまのいつも心明るく通られたひながたを深く学び、時には涙を流しながら受講する姿がそこにはあった。その温かい空気を感じながら共に過ごしていた委員長さんの最後のプログラムでの言葉が冒頭である。

いよいよ来月にはまなびば本番を迎えるとのこと。そこには事前研修会に参加された学担の垣根を越えた老若男女がスタッフを務められるそうである。A さんの情熱がたくさんの人の心に届いたこと、そして先輩方から引き継がれてきた学担の持つプログラムが素晴らしいのだと改めて確信した。夏の親里で開催されたこどもおちばがえり、学生生徒修養会高校の部という素晴らしい育成行事も大盛況に幕を閉じた。この旬に、この機会に、今年こそと精一杯の真実を尽くして声掛けやお誘いにご尽力くださいました先生方に深く御礼申し上げます。

さて 11 月 27 日～28 日にかけて『育成に役立つ研修会』を開催させていただきます。この行事は育てさせていたただく私達が育てていただける場です。

真柱様が「育てる者が育つことによって、初めて人を育てられるのであります」と仰ったお言葉に、どうぞこの旬に、この機会に、ご参加を心よりお待ちしております。

人材育成部 委員

岩井 大輔

令和 6 年 学生担当委員会 活動方針
 「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

「立教百八十七年学生生徒修養会 高校の部」開催報告

今年も真夏の親里において、「立教百八十七年学生生徒修養会 高校の部」を8月9日より13日までの期間で開催しました。今年751人の受講生を迎え、事前に研修を重ねた369人のスタッフが世話取りにあたりました。本年の「学修 高校の部」では、「陽気ぐらしに必要なこと」向き合うことの大切さ」のテーマのもと、学年ごとに異なるプログラムで開催いたしました。

スタッフ一同は7日より直前研修会を行い、8月8日の係員結団式には真柱様がお出ましくださり、「陽気ぐらしへ歩んでいくために、高校生の年代で心得ておくことを少しでも身につけて帰ってくださるよう望みたい、皆様方にもその真実を持ってつとめていただきたい」とお話しくださいました。その後、係ごとでねりあいを行い、真柱様のご期待にお応えできるよう、受講生を迎える心を作らせていただきました。期待と不安の中、9日より受講生を迎え、いよいよ本期間が始まりました。各班には受

講生にとつて、兄・姉代わりとなる男女カウンセラーが付き、各学年でウォーミングアップやオリエンテーション等を行い、心がほぐれてきたところで全ての受講生が一堂に会して、開講式を執り行いました。その席上、学生担当委員会担当常誌、山本忠治先生よりご挨拶があり、「おぢばは親神様、教祖がおられる所で、可愛い子供達が親元に帰ってきてくれたこと、また親の思い、陽気ぐらしの教えを学んでくれることを何より喜びくださっている。これから始まる5日間を安心して、精一杯、存分に楽しんでもらいたい」と激励くださいました。

期間中、受講生は「グループタイム」を通して、共に語り合い、学修で出会った仲間たちと支え合い、たすけ合う中でその喜びを味わいました。また「親神様」、「教祖」、「かしの・かりもの」の講話を通して、教えに触れる充実した5日間を過ごしました。お別れ会では、心を通わせ、共に過ごしたカウンセラーと受講生が別れを惜しみ、涙す

る感動の場面が各学年で見られました。

閉講式で表統領先生は、「この学修はスタッフの熱意、送り出してくれた人たちの力があって実現している。その根本にはおぢばで育てたいという神様の親心があり、その親心にお応えしたいというさまざまなたちの思いが結集されている。また、このおぢばは一人ひとりの真実の故郷であり、必ずたすけてくださる場所だということを忘れないようにしてほしいし、次のおぢばでの出会いを楽しみにしてもらいたい」とお話しください、さらに、「帰ってからも生かされていることに感謝し、この大きなご恩にお応えすることができるよう成人してもらいたい」と期待を込めてお話しくださいました。

スタッフ一同はこの度のご用を務めたことを吉祥に、これからも学生と共に育つ成人の努力を積み重ねていくことを誓い合いました。最後に、この度は真柱様、奥様、大亮様、布恵様の親心を賜り、また各直属学生担当委員会の皆様の大きなお力添えのもと、「学生生徒修養会 高校の部」をつとめ終えることができましたことを深く感謝申し上げ、報告いたします。

「立教百八十七年子どもおぢばがえり 大学生ひのきしん隊」開催報告

今年も子どもおぢばがえりに合わせて、7月27日〜8月4日までの期間、大学生層を対象にした「大学生ひのきしん隊」を結成しました。期間中、1日だけの参加も可能でしたが、多くの学生が複数日参加し、計36名(参加者15名、スタッフ21名)の学生がひのきしんに励みました。

学生たちは、おぢばに帰ってきた少年会員に喜んでもらおうと、「廻廊ひのきしん」での受け入れひのきしんをつとめました。天理大学や天理高校の学生らと共に、フリップを用いたひのきしんの説明や誘導、廻廊での声掛けなどのひのきしんに励み、生かされていることに感謝する心、ひのきしんをする素晴らしさなど、多くの感謝や喜びを味わうことができました。

連日暑い中、参加した学生たちは汗を流しながら、それぞれの役割に励み、元気に廻廊拭きをする子どもたちの姿を見て、信仰の喜びを味わっているようでした。

「立教百八十七年 天理教学生会夏期リーダーの集い」開催報告

天理教学生会は、8月7、8日の2日間に亘り、「立教百八十七年天理教学生会夏期リーダーの集い」を開催し、総勢119名(教区26団体62名、直属11団体12名、学生スタッフ45名)の学生が参加しました。集いでは、道の学生ひのきしんDAY(9月16日)に向けての話し合いに重点が置かれました。

1日目は、班内や学年別・ブロック別での交流が行われました。その中で、お互いを知ったり、学生会活動へ対する思いを語り合ったりすることで、多くの学生と関わり、仲間存在を感じているようでした。

2日目は、道の学生ひのきしんDAYについて学ぶ時間を取り、天理教青年会本部の鈴木寿男委員より「かしの・かりもの」についての講話を頂き、実際にひのきしんをすることで、より一層学びを深めているようでした。また、ひのきしんを通して感じたことを全体に共有し、より多くの感謝を再確認しました。

日々行う「ひのきしん」はもとより、道の学生ひのきしんDAYをどう迎えるかについて考え、お道につながる学生として心をひとつにすることを誓い合い、今回の夏期リーダーの集いを終えました。

青空

今年の夏の学修が終わりました。私がスタッフをするたびに思うことは、「学修参加しておけば良かった」ということです。

私は学生時代、学生会が苦手でした。学修も同じようなものだと思いつき、参加せずに学生生活を終わりました。学修のスタッフをするようになって、スタッフ一人ひとりがこんなにも学生を思ってくれていて、帰って帰ってもらえるように努めていることを知って、すごくもったいないことをしたなあと思っています。

コロナがあり、学修が当たり前にできない時期があったと思うと、開催でき、スタッフとして参加できることがありがたいことだと思えます。学生が来たときの不安げな表情が、帰るときにはとてもいい笑顔になっているのを見ると、「良かったー」と毎回思います。学生にはぜひ学修に参加してもらって、たくさん思い出と気付きを持って帰ってもらいたいのです。

人材育成部部員 有光 洋子